

| | |
|-------|---|
| 講義年月日 | 2002年10月9日(水) |
| 講演者 | 原田 隆史氏(慶應義塾大学文学部助教授) |
| テーマ | デジタルデータの作成、蓄積と活用 |
| 講義内容 | <p>1. デジタルデータ 既に作成されているデジタルデータと 図書館が発信するデジタルデータがある。</p> <p>2. 図書館のWebページ作成 Webサーバの設定や管理をプロにまかせれば、HTMLを書くだけである。</p> <p>3. 図書館で作成するWebページの内容 お知らせとリンク集のほかに、E-mailレファレンスやOPACおよびBBSなどへと取り組んでいく。</p> <p>4. E-mailレファレンスと双方向性 E-mailアドレスを<mailto:>タグ付きで掲載するだけでも、利用者からは反応がある。</p> <p>5. Webページでのプログラム 二つの観点から分類することができる。 「サーバでプログラムを動かす」または「クライアントでプログラムを動かす」。 「HTMLの外部で処理する」または「HTMLの内部で処理する」。</p> <p>6. CGI、Java、JavaScript、PHP CGI: HTML内に指定したファイル名で示されるWebサーバ上のプログラムを起動する。 プログラム言語はPerlが主流。 Java: サーバ上で実行されるJava Servletとクライアントで実行されるJava Aplet。 JavaScript: HTML中に<JavaScript>タグを用いて直接記述する。 PHP: HTML中に<PHP3?>や<PHP?>タグを用いて直接記述する。</p> <p>7. CGIを用いたE-mailレファレンスとBBSの運用 CGI/Perlを使用することでE-mailレファレンスやアンケート、 およびBBSなどのシステムも簡単に実現が可能である。</p> <p>8. 利用者の興味に応じた情報の提供 - 選択的配信メールマガジンの発行 - 電子メールはデジタル時代のプッシュ型情報提供メディアなので、 「攻め」の情報提供が実現できる。</p> <p>9. データベースシステムと簡易OPACシステムの作成 大量の同じ形式のデータを処理することを目的としたソフトウェアを、 データベース管理システム(DBMS)と呼ぶ。 データさえあれば単純にDBMSでも図書館は運用可能だが、実際には様々な困難を伴う</p> <p>10. 図書館とオープンソース・ソフトウェア ニュージーランドのKohaなど、オープンソースの図書館システムを開発する動きもある。 図書館システムは既存のものを使用してOPACのみを自館で開発している例もある。</p> |
| 用語 | <p>mailto タグ HTMLタグの一つ。メールアドレスを指定する。リンクをクリックするとメールを送信するウィンドウが自動的に起動する。</p> <p>Perl :プログラミング言語の一つ。インタプリタ型なので、コンパイルせずに実行することができる。現在は、CGIの開発によく使用される。</p> |
| 感想 | 現在、続々と生み出されているデジタルデータに対して図書館はどのように向かい合っていくべきだろうか。従来の冊子体だけを対象にするだけではなくデジタルデータも取り入れよう。そして、既に用意されているデータだけではなく、積極的にデジタル情報を発信していこう。その先に図書館の担っていく役割が見えてくるのではないかと思う |
| 配付物 | 「デジタルデータの作成、蓄積と活用」 |